

2014年6月30日 全5頁

Indicators Update

5月鉱工業生産

2ヶ月ぶりの増加も、生産は減速傾向

経済分析室
エコノミスト 橋本 政彦

[要約]

- 2014年5月の生産指数は、前月比+0.5%と2ヶ月ぶりの上昇となったものの、市場コンセンサス（同+0.9%）を下回った。4月の落ち込みに照らすと、5月の上昇幅は限定なものに留まっており、生産はこのところ減速している。なお、出荷指数は同▲1.2%と4ヶ月連続で低下し、在庫指数は同+2.9%と2ヶ月ぶりに上昇したことから、在庫率指数は同+3.5%と2ヶ月ぶりの上昇となった。
- 5月の生産指数を業種別に見ると、全15業種中、8業種が前月から上昇した。生産が増加した業種を見ると、輸送機械工業、繊維工業、電子部品・デバイス工業の増加が全体の押し上げに寄与した。
- 製造工業生産予測調査では、6月の生産計画は前月比▲0.7%、7月は同+1.5%と一進一退の動きを見込んでおり、均せば横ばい圏での推移が続く見込み。6月の生産計画を業種別に見ると、5月にも生産が大きく減少していた情報通信機械工業が▲5.7%と減少する見込みである。また、輸送機械工業が同▲4.1%と減少することが全体を押し下げる見通し。一方、7月には生産の持ち直しが見込まれているが、これははん用・生産用・業務用機械工業の大幅な増加（前月比+8.0%）が主な要因である。足下で特に生産が弱含んでいる情報通信機械工業では減速傾向を強める計画（同▲10.3%）となっており、今後の動向に注視が必要。

鉱工業生産の概況（季節調整済み前月比、%）

	2013年					2014年					5月
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月		
鉱工業生産	▲0.5	1.5	0.6	0.3	0.5	3.9	▲2.3	0.7	▲2.8	0.5	
コンセンサス										0.9	
DIR予想										1.3	
生産者出荷	0.1	1.7	1.3	0.1	0.2	5.1	▲1.0	▲0.2	▲5.0	▲1.2	
生産者在庫	▲0.7	▲0.1	▲0.3	▲1.4	▲0.2	▲0.4	▲0.9	1.4	▲0.5	2.9	
生産者在庫率	1.4	▲2.3	▲2.5	▲1.1	▲0.2	▲4.6	3.9	2.1	▲1.6	3.5	

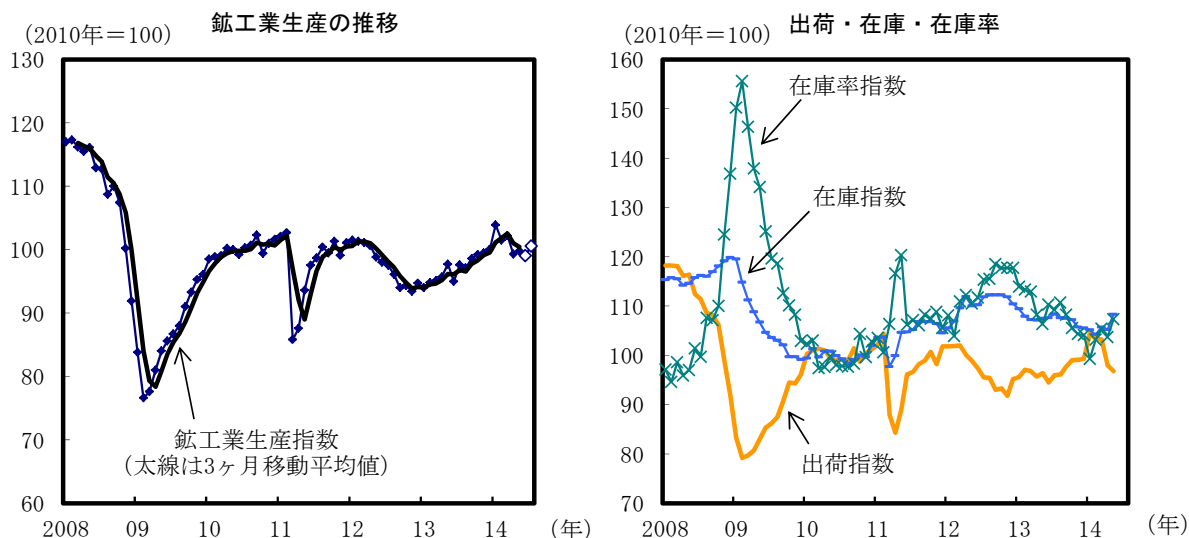
（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）経済産業省、Bloombergより大和総研作成

2014年5月の生産指数はコンセンサスを下回る

2014年5月の生産指数は、前月比+0.5%と2ヶ月ぶりの上昇となったものの、市場コンセンサス（同+0.9%）を下回った。4月の落ち込みに照らすと、5月の上昇幅は限定なものに留まっており、生産はこのところ減速している。なお、出荷指数は同▲1.2%と4ヶ月連続で低下し、在庫指数は同+2.9%と2ヶ月ぶりに上昇したことから、在庫率指数は同+3.5%と2ヶ月ぶりの上昇となった。

生産・出荷・在庫・在庫率の推移



(注) 鉱工業生産の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

輸送機械工業、繊維工業、電子部品・デバイス工業の生産が増加

5月の生産指数を業種別に見ると、全15業種中、8業種が前月から上昇した。生産が増加した業種を見ると、輸送機械工業、繊維工業、電子部品・デバイス工業の増加が全体の押し上げに寄与した。

輸送機械工業は前月比+1.9%と2ヶ月ぶりの増加となった。増税後の反動減により国内新車販売台数は低位での推移が続いており、出荷指数は前月比▲4.8%と3ヶ月連続の減少となっている。一方で、駆け込み需要によって減少した在庫を復元する動きが生産を下支えしているとみられ、輸送機械工業の生産は底堅い。電子部品・デバイス工業は前月比+0.4%と2ヶ月ぶりの増加となった。スマートフォン、タブレット端末に用いられる「アクティブ型液晶素子（中・小型）」が主な増加要因。足下で多くの業種の生産が減速するなか、電子部品・デバイス工業の生産は増加基調を維持しており、堅調な推移が続いている。

一方、生産が減少した業種は、化学工業、情報通信機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業である。

化学工業は前月比▲4.5%と3ヶ月連続の減少となったものの、前月時点の製造工業予測調査で5月の減産を見込んでいたため、概ね計画に沿った内容。4月にも大幅に減少していた「合成

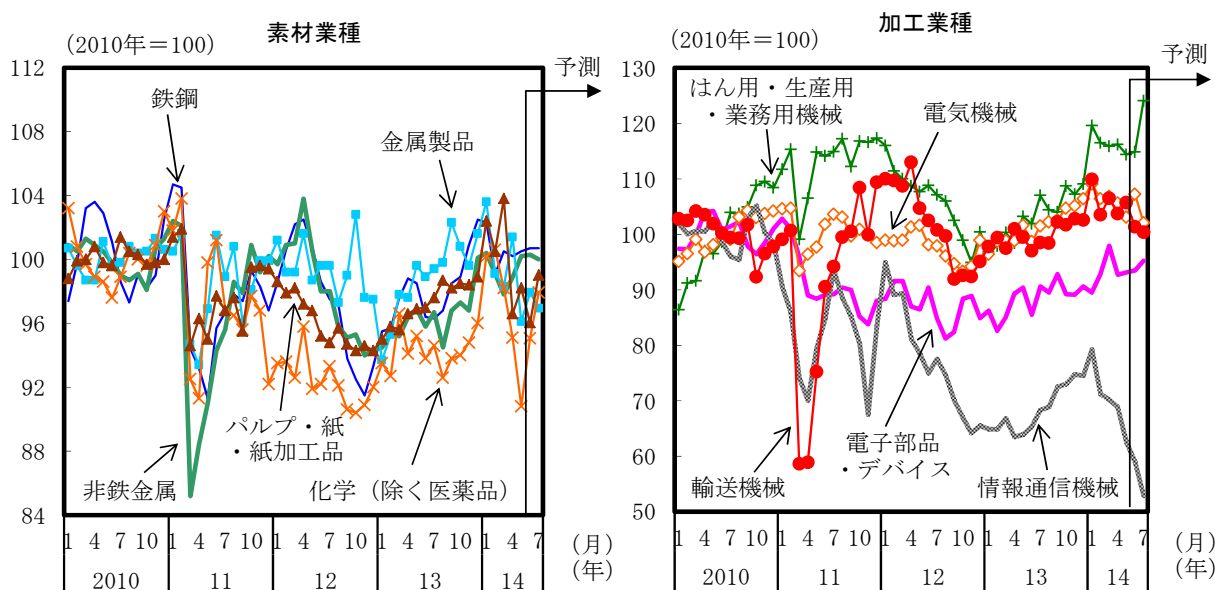
洗剤」の生産が2ヶ月連続で減少したことが押し下げ要因となった。化学工業の生産はこのところ減少傾向が続いており、生産全体の下押し要因となっている。情報通信機械工業は前月時点の増産計画に反して、前月比▲9.3%と4ヶ月連続の減少となった。「デスクトップ型パソコン」、「ノート型パソコン」が主な減少要因となったが、これは増税後の反動減に加えて、ウィンドウズXPのサポート切れに伴う駆け込み需要の反動減が影響しているとみられる。

6月、7月の生産計画は横ばい圏

製造工業生産予測調査では、6月の生産計画は前月比▲0.7%、7月は同+1.5%と一進一退の動きを見込んでおり、均せば横ばい圏での推移が続く見込み。

6月の生産計画を業種別に見ると、5月にも生産が大きく減少していた情報通信機械工業が▲5.7%と減少する見込みである。また、輸送機械工業が同▲4.1%と減少することが全体を押し下げる見通し。一方、7月には生産の持ち直しが見込まれているが、これははん用・生産用・業務用機械工業の大幅な増加（前月比+8.0%）が主な要因である。足下で特に生産が弱含んでいる情報通信機械工業では減速傾向を強める計画（同▲10.3%）となっており、今後の動向に注視が必要。

主要業種の生産推移



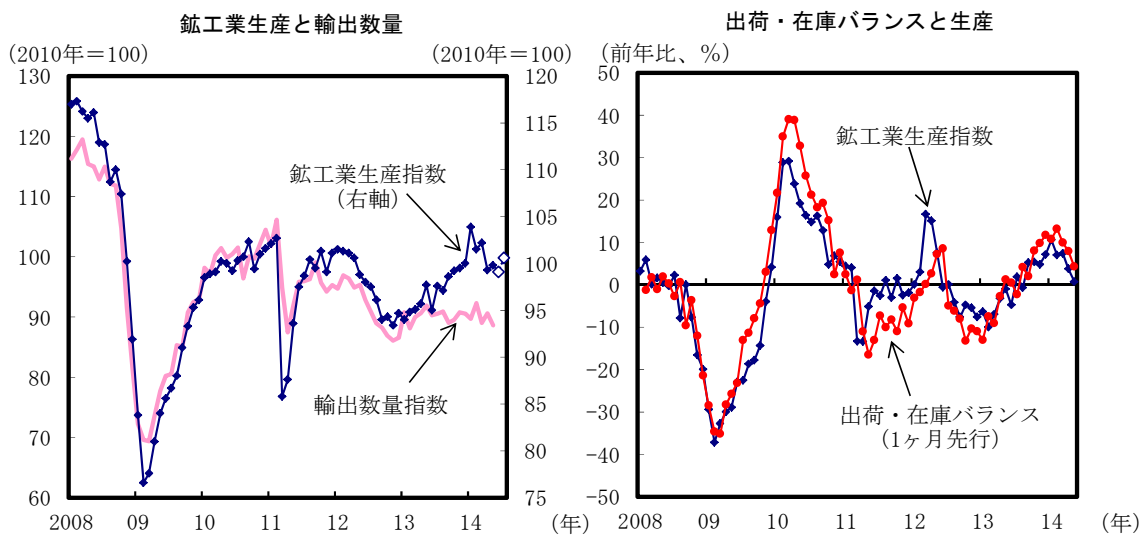
(注) 直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

先行きの生産は底堅い推移を見込む

先行きに関しては、消費税増税後の個人消費の減少に起因した減速は短期的なものに留まり、生産は底堅い推移が続くと見込んでいる。個人消費の反動減による影響は4月を底に緩和傾向にあり、生産の下押し圧力は徐々に後退する見込みである。また、今後は輸出の増加が生産を

牽引するとみられる。輸出については、円安の効果や米国を中心とする海外の景気拡大によって今後増勢を強める公算が大きい。さらに、足下で増加基調となっている設備投資は、輸出の増加が続けば拡大が続くとみられ、国内向け投資財の生産増も、鉱工業生産のドライバーになる見込みである。

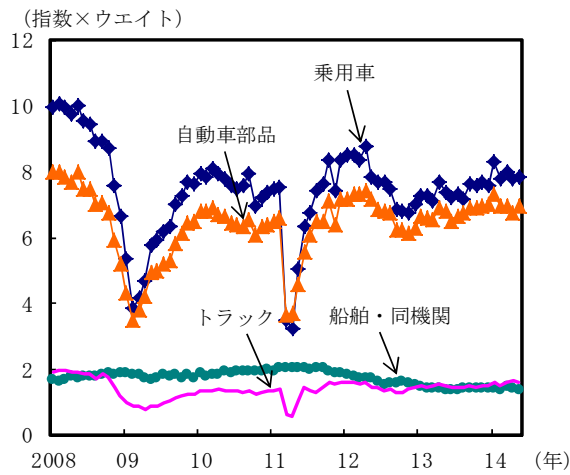
輸出数量、出荷・在庫バランスと生産



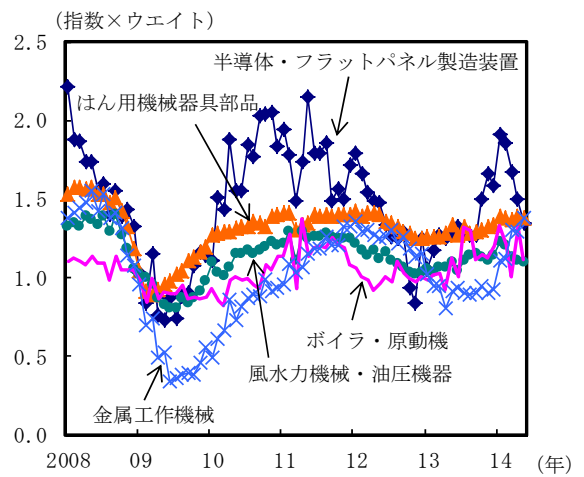
(注) 鉱工業生産の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
 (出所) 内閣府、経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

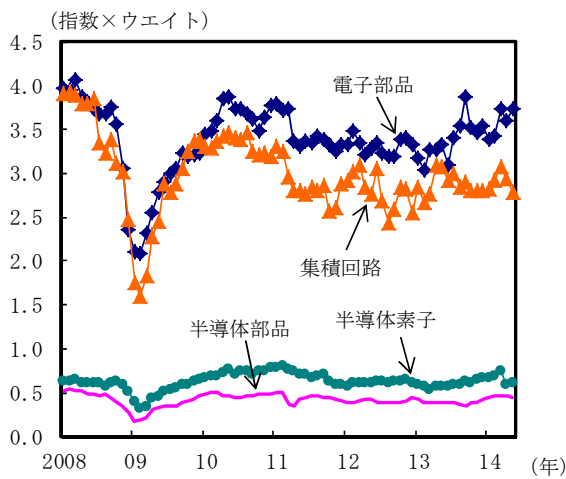
輸送用機械



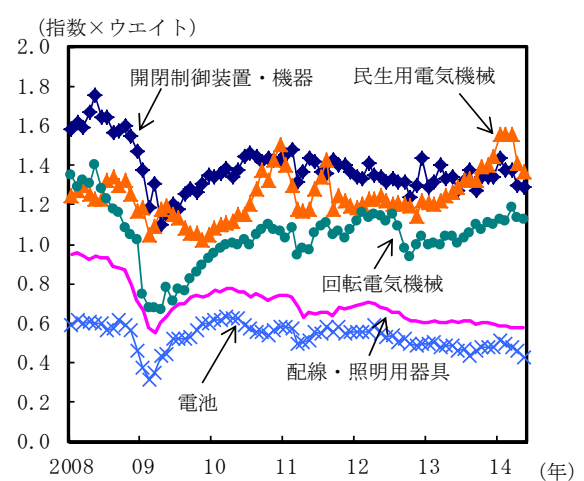
はん用・生産用・業務用機械



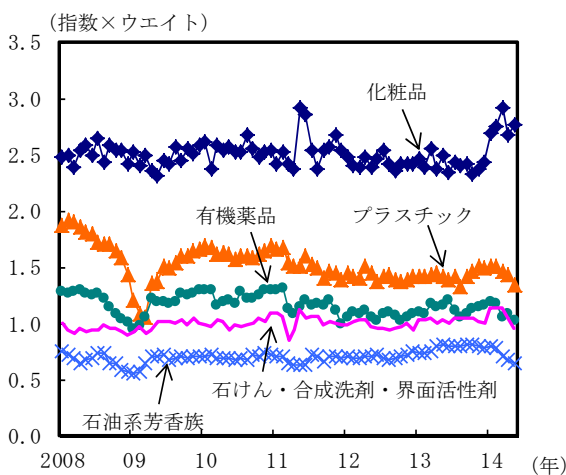
電子部品・デバイス



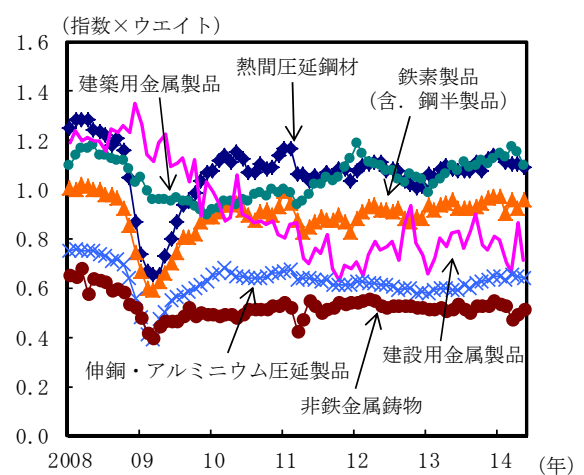
電気機械



化学



鉄鋼・非鉄金属・金属製品



(出所) 経済産業省統計より大和総研作成